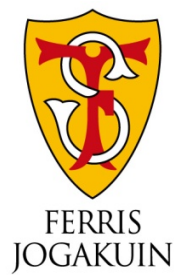


フェリス女学院

2016 年度事業計画書（概要）



2016年度事業計画策定にあたって

1870年（明治3年）に、アメリカ改革派教会宣教師であったメアリー・E・キダーによって、横浜の地に始まったフェリス女学院は、2020年に創立150周年を迎えます。

キリシタン禁制の高札が掲げられていた時代に、「キリスト教の信仰に基づく女子教育」を建学の精神として掲げ、また、女子教育の意義や必要性など誰も考えなかった時代に、女性宣教師キダーが女性のために始めた教育は、まさに時代を切り拓くものでした。そして、永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになった「For Others」を教育理念として掲げ、中学校・高等学校、大学において、教育・研究活動を展開してまいりました。

しかし、昨今の少子化や経済情勢等の影響を受け、私立学校を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。そんな中、2020年の学院創立150周年に向け、建学の精神や教育理念を堅持した上で、教育を通じて社会に貢献し続けていくため、中学校・高等学校、大学それぞれが「フェリス女学院の教育の将来構想」であるグランドデザインを策定しました。

まず、大学では、このグランドデザインの柱として2017年度に発足予定の「CLA（全学教養教育機構）構想」のため、カリキュラム及びCLA棟の整備、国際センター（仮）の設置等の検討を着実に進めてきました。そして、2013-2016年度の「大学中期計画（13-16PLAN）」の最終年度となる2016年度は、中期計画の達成状況を確認するとともに、大学グランドデザインの実行計画とも言える次期「大学中期計画（17-20PLAN）」を策定予定です。

一方、中学校・高等学校は2015年度に第二期工事（新体育館及び新2号館の建替え）が完了し、施設面の充実が図られたことから、教育の内容を今まで以上に充実させていくための「中高中期計画（15-20）」を策定し、2016年2月の理事会で承認を得ました。2016年度の事業計画は、この中期計画を実行に移す内容となっています。

更に、学院では、中学校・高等学校及び大学のグランドデザインの実現を支えるため、組織の整備と運営、中長期的な視野に立った財政計画等を含む「学院中期計画」を策定し、2015年2月の理事会の承認を得ました。2016年度の事業計画は、この中期計画を実行に移していく内容となっています。

このように、創立150周年に向け、大学、中学校・高等学校それぞれが策定した教育の基本方針である「グランドデザイン」、その「グランドデザイン」を着実に実現するための、教学・財政両面にわたる具体的・戦略的な計画である「中期計画」、さらに、中期計画の目標を達成するためのアクションプランとしての「事業計画」を、教職員一人ひとりが意識し、実行に移すことで、フェリス女学院の教育・研究活動がさらに充実するよう、最大限努力してまいります。

2016年3月

学校法人フェリス女学院
理事長 奥田義孝
学院長 鈴木佳秀

フェリス女学院大学事業計画

大学では、2013-2016年度の4年間を単位とする中期計画（13-16PLAN）を策定している。

4年間を通じてつねに目指すべき最上位目標は、あくまでも、フェリス女学院の建学の精神である「キリスト教の信仰に基づく女子教育」と教育理念「For Others」のさらなる具体化・推進である。

その実現のため、中期計画では、「1.『建学の精神』『教育理念』の明確化」「2.安心・安全なキャンパスづくり」「3.受験生・学生に支持される大学」「4.大学の発展を支える組織体制の強化」の4点を基本方針とし、そのもとで単年度の事業計画を策定している。また、外部環境と大学に求められる社会的役割の変化に柔軟に対応するため、毎年度の事業計画策定と並行して中期計画自体の見直しも行っている。

中期計画13-16PLANの最終年度となる2016年度は、4年間の中期計画の総括とともに、大学ブランドデザインの実現に向けてより具体的な改革を推進していく年度となる。具体的には、2017年度に発足するCLA（全学教養教育機構）構想に関するカリキュラム及びCLA棟の整備並びに国際センター（仮）の設置等がその中心的な取組となる。また、2015年度に受審した大学基準協会の認証評価の結果も踏まえ、内部質保証の実質化を目指すあらたな点検・評価の枠組を整備していく。

こうした取組を通じて、大学ブランドデザインの実行計画とも言える次期中期計画17-20PLANをより実効性のあるものとして策定していく。

2016年度実施分の事業計画の抜粋は以下のとおりである。

（1）「建学の精神」「教育理念」の明確化に関する取組

大規模総合大学がスケールメリットをいかした改革を進めるなか、本学のような小規模大学は「建学の精神」「教育理念」を明確に示すことで差別化を図り、特色ある教育によって、独自の役割とポジションを確立していくことが必要である。中期計画（13-16PLAN）では、「建学の精神」や「教育理念」をただ題目として論じるだけでなく、具体的な実践活動として展開し、その「良さ」や「意味」を学内外にアピールできる事業を積極的に展開していく。

キリスト教精神/For Others の実践

- ・ キリスト教に関わる科目の充実と教育プログラムの整備・推進
- ・ 学内における宗教活動の位置づけの改善
- ・ 交流体験で学ぶ For Others
- ・ 東日本大震災被災者支援プログラム
- ・ ボランティアに関する啓発・支援とセンター学生スタッフ育成プログラム
- ・ For Others の学びと実践～ボランティア活動の振り返り
- ・ キリスト教に関する学術的研究の推進

女子大の特色をいかした教育・事業展開

- ・ 女子大ならではの教育プログラム推進とその長所の発信
- ・ 読書運動プロジェクト¹

ブランドの構築

- ・ 大学の教育研究に関する戦略的広報の展開

中期計画に基づく教学改革の推進

- ・ グランドデザインに基づいた全学教育プログラムの推進
- ・ 英語英米文学科の教学改革プロジェクト
- ・ 日本語日本文学科の教学改革プロジェクト

¹ 全学的に取り組んでいる読書推進活動。毎年テーマを決め、関連図書を重点的に読むプログラム。

- ・ コミュニケーション学科の教学改革プロジェクト
- ・ 国際交流学部の教学改革プロジェクト
- ・ 音楽学部の再建計画の実行

(2) 安心・安全なキャンパスづくり

東日本大震災の経験を踏まえ、中期計画(13-16PLAN)では、首都圏直下型地震や地球的規模の環境変動からもたらされる自然災害を念頭におき、学生たちを安心して受け入れられる(子どもを安心して家から送り出せる)キャンパス環境の整備に取り組む。あわせて、食の安心・安全、持続可能な環境への配慮を行い、あらゆる面で安心・安全なキャンパスづくりを目指す。

キャンパス環境の整備

- ・ エコキャンパスの推進
- ・ 施設・設備の計画的な整備
- ・ 教育研究システムの運営管理
- ・ 学院基盤システムの運営管理
- ・ フェリスホールの維持管理

キャンパスの安全確保

- ・ 安心・安全なキャンパスづくり(大規模自然災害・防災対策、セキュリティ)
- ・ 緊急連絡システムの運営管理

食の安心・安全

- ・ 安心・安全な食の提供

学生生活支援体制の充実

- ・ バリアフリー化推進
- ・ 奨学金施策の拡充
- ・ 初年次1年間を通じた導入支援
- ・ 規模・特性をいかした学生支援体制の構築
- ・ 大学生活における心身の健康維持・増進支援
- ・ 学生厚生施設・キャンパスアメニティの充実

地域連携の推進

- ・ 山手の丘音楽コンクール
- ・ 地域連携ボランティアプログラム
- ・ 多文化共生社会に向けたボランティアプログラム

(3) 受験生・学生に支持される大学

「2018年問題」として18歳人口の減少期を目前に控えたこの時期、受験生・学生に真剣に向き合い、そのニーズにあった即効性のある事業を優先的に推進することが求められる。中期計画(13-16PLAN)では、従前どおりの事業を自動的に継続するのではなく、外部環境の変化と大学に求められる社会的役割の変化への柔軟な対応を考慮し、教学改革・学生支援・就職支援・国際化推進・施設設備改善などを積み重ねていく。在学生・保証人の満足度を高めることで、受験生からも支持される大学を目指す。

受験生の視点からの入試制度見直し

- ・ 入試出願方法の見直し
- ・ 適切な入試問題の作成

- ・ 入試関連情報の有効活用

受験生への広報の強化

- ・ 受験生を対象とした広報の充実

教育の充実

- ・ コミュニケーション学科教員の情報発信と学生による情報発信
- ・ テーマ授業群の導入（国際交流学部）
- ・ 外部資金を利用した授業の展開（国際交流学部）
- ・ プログラム制の導入と科目ナンバリング概念²の導入（国際交流学部）
- ・ 音楽学部の教育・研究環境の整備
- ・ 社会変化に対応した「新しい時代の基礎教養」を目指して
- ・ 組織的なFD³によるよりフェリスらしい「健康・スポーツ」の構築
- ・ 自発的学修者育成のための履修情報提供
- ・ 語学教育の質を支える「担当者間コーディネイト」
- ・ 英語教育の効果測定とカリキュラム改善
- ・ ICTを活用した授業への対応、教育環境の標準化
- ・ 主体的に学ぶ力の育成～学生を鍛える大学へ～
- ・ 学期制度の見直し～集中と柔軟性がもたらす切れ目ない学び～
- ・ 語学集中学修の仕組みづくり
- ・ 学生のICTリテラシー向上支援
- ・ 学修支援の場としての図書館機能の充実

学修支援体制の充実

- ・ 新入生への学生生活導入支援
- ・ 新入生への学修支援～生徒から学生へ
- ・ 学修支援の仕組みづくり～あとひと押しによる成長の促しと中間層への働きかけ（何が必要か自覚させる）
- ・ 語学教育促進
- ・ 学務システム（GAKUEN）の運用管理
- ・ Ferris Passportの運用管理
- ・ 学修支援システムの構築・運用管理
- ・ 学修支援の仕組みづくり

キャンパスの活性化

- ・ 正課外活動の活性化支援

キャリア形成支援の充実

- ・ 就職支援の充実
- ・ アカデミック・スキル、ソーシャル・スキル、職業観の育成

国際化の推進

- ・ セメスター・アブロード⁴

² ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。対象とするレベル（学年等）や学問の分類を示すことは、学生が適切な授業科目を選択する助けとなる。（文部科学省中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」用語集より抜粋）

³ Faculty Development。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。（文部科学省中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」用語解説より抜粋）

⁴ 文学部英語英米文学科学生が、1学期間ニュージーランドに留学するプログラム。

- ・ 文学部日本語日本文学科の教育と研究の成果を世界に向けて発信するためのプロジェクト
- ・ グローバル人材育成のための海外派遣留学促進
- ・ 受入留学生を中心にした学内国際化推進
- ・ 異文化理解を通じた国際交流による課外活動活性化

研究活動の充実

- ・ 研究支援の強化と学内体制の検討
- ・ 学術機関リポジトリの運用

(4) 大学の発展を支える組織体制の強化

中期計画(13-16PLAN)では、今後の大学の発展を支える組織体制の強化について集中的に取り組む。教学の様々な戦略的事業を展開するにあたり、教員とともに大学運営の企画・立案をになう事務組織の機能開発の推進や適正な人員配置など、大学の組織体制の強化は重要事項である。次に、大学を支える様々なステークホルダーに対し説明責任が果せるよう、実質的な自己点検・評価の推進を継続して行う。さらに、事業計画と予算編成の連動により、経常的支出の抑制・戦略的事業に対するの重点的な予算配分を行うなど、大学財政の健全化を継続して図る。

大学組織の機能強化

- ・ 大学組織再編に関する検討
- ・ SD⁵の推進
- ・ ペーパーレス化の推進
- ・ 業務効率向上のためのシステム開発

財務状況の健全化

- ・ 教育充実資金の拡充

アカウントビリティの確保

- ・ 保証人に対する就職情報の説明
- ・ 大学基準協会での認証評価受審と自己点検・評価の実質化推進

同窓会・卒業生との連携強化

- ・ 同窓会活動の支援

奨学会との連携強化

- ・ 父母等保証人との連携強化
- ・ 奨学会活動の支援

生涯学習の推進

- ・ オープンカレッジの充実

⁵ Staff Development。事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援まで含めた資質向上のための組織的な取組を指す。(文部科学省中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」用語解説より抜粋)

フェリス女学院中学校・高等学校事業計画

2013年に新体育館建設から始まった第二期工事⁶は、2015年の新2号館の竣工を経て、2016年1月に全工程を完了した。これにより、山手178番を中心とする本校の教育環境の整備が一段落を見たことになる。これを踏まえ、2015年度は2020年までの6か年を見据えた中期計画を作成するという新たな段階に入った。2016年度は、その中期計画を実施に移す初年度ということになる。

中期計画は、2012年に策定した「フェリス女学院中学校・高等学校グランドデザイン」を具体的に推進するため、2015年から2020年までの6年間に取り組む具体的な項目をとりまとめたものである。全部で10の柱からなるが、1～9の柱は教育内容に関するものであり、それを財政面から裏付けるために、10番目の柱として財政・施設計画が置かれている。

教育内容に関する1～9の柱は、「グランドデザイン」の具体化であり、これまでの本校の基本的な教育方針を変えるものではなく、むしろその一層の充実を目指すものであるが、近年の教育をめぐる状況の大きな変化の中で、その具体的な取り組みをあらためて見直したり、新たな取り組みを始めるものを含んでいる。

2016年度から、この中期計画が具体的に動き出すことになるが、以下の(1)から(10)までが2016年度に予定している内容である。2016年度は検討と実施が混在している。こうした計画が、柱の10「財政・施設計画」に基づいて実施されていく予定であることは言うまでもないことである。

(1) キリスト教教育

【当該事業の最終目標】

キリスト教信仰に基づく真の自由の追求。

【2016年度の事業計画】

- ・ 「道徳」の教科化への対応
- ・ 修養会⁷や卒業準備の会⁸の時期・場所の再検討
- ・ キリスト教行事（クリスマス礼拝や宗教講演会等）の保護者への開放など

(2) 自校教育

【当該事業の最終目標】

フェリスの歴史を知り、フェリスで学ぶことの意味を知る。

【2016年度の事業計画】

- ・ 新入生オリエンテーション
- ・ ホームルーム（HR）の時間における自校理解の促進
- ・ 山手巡り（外国人墓地等、フェリスに関係する場所を巡る）復活の検討

(3) 学問の尊重

生徒の「勉学へのモチベーション」を重視し、中学校では基礎学力の向上を、高等学校では生徒各自の持てる力をさらに伸ばすことを目指す。

⁶ 新体育館及び新2号館の建築工事。新体育館は2013年7月着工、2014年8月竣工。新2号館は、2014年5月着工、2015年6月竣工。

⁷ 日常生活を離れて、寝食を共にしながら、聖書の学びや人生について考えるフェリス独自のカリキュラム。中1、中2、高1が対象。

⁸ 卒業まで1年となった高2が、泊りがけで将来や人生について考えるフェリス独自のカリキュラム。

基礎学力の向上

【当該事業の最終目標】

中学 3 年間の学力向上（特に英国数）、授業計画の再検討、補習・補講の実施などを検討する。その際、「勉学へのモチベーション」を重視し、学習嫌いをつくらない指導を大切にする。

【2016 年度の事業計画】

- ・ 基礎学力の向上

生徒の力を更に伸ばす

【当該事業の最終目標】

高等学校では、本物の学問と出会いを大切にし、学ぶことの楽しさ・意味を深く知る中で、各自に与えられた力をさらに伸ばす。

【2016 年度の事業計画】

- ・ 発展的学習の充実

(4) 外に向かって開かれた教育

【当該事業の最終目標】

グローバル化が進展する中で、これから社会に出て行く生徒たちには、そのような社会の中で生きていく力が求められる。それは、大きな視野に立ち、価値観の違いを超えてどのような人たちとも交流できるような力であると考えられる。そのような力を伸ばす教育、社会に向かって開かれた教育、生徒のコミュニケーション力・プレゼン力を向上させる教育を目指す。

【2016 年度の事業計画】

- ・ 英語教育の充実
- ・ 国際交流の拡充の検討
- ・ グローバルな視点からの授業・生徒の社会への関心を高める
- ・ コミュニケーション力・プレゼン力の向上
- ・ 講演会などの実施
- ・ 校外活動への柔軟な対応

(5) 進路指導・キャリア教育

【当該事業の最終目標】

進路指導とキャリア教育を通して、一人一人の生徒にモチベーションを持たせる。

【2016 年度の事業計画】

- ・ 担任による個別指導（個人面談等）の充実
- ・ 生徒の人生設計に資する講演会や卒業生講演会の開催

(6) 生徒指導

【当該事業の最終目標】

生徒会活動やクラブ活動や文化祭活動などを通して、生徒の自主性を引き出し、自らの人生を切り拓いて行く力を育てる。

【2016年度の事業計画】

- ・ 生徒の自主性を引き出す指導
- ・ 心身ともに生徒の成長を助ける指導

(7) 保護者との関係性強化

【当該事業の最終目標】

保護者にフェリスの教育をより深く理解してもらい、「フェリスの支持者」になってもらう。

【2016年度の事業計画】

- ・ 体育大会やクリスマス礼拝等の学校行事への参加促進
- ・ 奨学会の活動の充実
- ・ 聖書教室の拡充
- ・ 保護者個人面談について
- ・ 朝の礼拝への参加

(8) 情報発信

【当該事業の最終目標】

社会・受験生・受験生保護者・在校生・在校生保護者・卒業生への積極的な情報発信を行う。

【2016年度の事業計画】

- ・ 学校説明会やホームページ・広報誌の充実

(9) 人事

【当該事業の最終目標】

教職員一人一人が大切にされる活気ある教職員集団を目指す。

【2016年度の事業計画】

- ・ 適正な教員数の確保と教員配置
- ・ 担任制度について

(10) 財政・施設

【当該事業の最終目標】

2020年度の150周年を目指して、外構整備を含めて施設整備を完了させる。また、持続的な学校経営を行うため、財政基盤の強化を図る。

【2016年度の事業計画】

- ・ 寄付募集の活性化（150周年記念募金を含む）
- ・ 1号館外壁・屋上防水工事
- ・ 1号館空調取替工事
- ・ 旧体育館・旧3号館跡地擁壁補修
- ・ カイパー記念講堂音響・照明等改修
- ・ 1・3号館⁹上水道用ポンプ更新工事
- ・ 体育館音響設備（メインアリーナ）
- ・ 調理室オープンレンジ更新

⁹ 2016年4月1日から中高12号館を3号館と改称。

学院基盤の強化に向けた取組

大学グランドデザイン、中高グランドデザインで構想したビジョンを実現するために、大学、中高はそれぞれ中期計画を策定し、着実に実行しようとしている。そして、学院としてもグランドデザイン実現を支援していくために、「学院中期計画」を策定した。

2016年度事業計画「学院基盤の強化に向けた取組」は、中期計画の5本の柱「体制整備」「業務の見直し」「人事政策」「財務」「学院150周年記念事業」を受け、その下で2016年度に実施する事業をまとめたものである。

これらの実施を通じて、一つひとつの計画を確実に遂行するだけでなく、それを検証することにより、その次の改革につなげていくことができるようなマネジメントを確立することを目指している。

(1) 体制整備

大学・中高がグランドデザインを実現するために、事務組織はその実現を支えていくことが求められており、その体制を整備する必要がある。組織の見直し、職務権限と責任の明確化によりマネジメント・内部統制体制の整備を行い、学院として最適な組織体制、運営体制を実現する。

事務組織の見直し

【当該事業の最終目標】

大学、中高、本部の役割を明確化し、学院全体で最適な組織体制を目指す。特に本部の役割・位置付けを明確にし、本部組織の立地についての選定を行う。

【2016年度の事業計画】

- ・ 事務組織の見直し（継続）
- ・ 情報ネットワーク管理・運用にかかる体制の全般的な刷新

職務権限と責任の明確化

【当該事業の最終目標】

職務権限の見直しを行い、各部署、各役職者の役割と責任を明確化し、マネジメント体制・内部統制体制の整備を実施する。あわせて、権限委譲を実施し、意思決定の迅速化を実現する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 権限と責任の明確化

内部統制体制の強化

【当該事業の最終目標】

上記によりマネジメント体制・内部統制体制の整備を行うとともに、業務の遂行状況、業務上の各種リスクを管理するために内部監査機能を強化するとともに、内部統制体制整備の一環として規程類の見直しも実施する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 内部監査機能の強化
- ・ 規程類の見直し

学院ガバナンス体制の整備

【当該事業の最終目標】

マネジメント体制・内部統制体制の整備とともに、大学、中高、学院における意思決定プロセス、権限の見直しを実施し、学院として最適なガバナンス体制の構築を目指す。

【2016年度の事業計画】

- ・ ガバナンス体制の見直し

(2) 業務の見直し

業務量の増加、業務内容の多様化、複雑化に対応するため、業務の見直しによる生産性の向上を実現するとともに、円滑な業務遂行体制・内部統制体制の整備を図る。

重複業務の解消

【当該事業の最終目標】

大学・本部間、中高・本部間、本部内各課間での重複業務を上半期に洗い出すとともに、各部署の業務分担を明確化し、下半期から重複業務の解消し、業務の効率化を実現する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 重複業務の解消

業務の効率化・非効率業務の見直し

【当該事業の最終目標】

経理効率化プロジェクトでコンサルティングより提案された改善策のうち未着手の事案について取り組む。その他の業務についても改めて見直しを行って効率化を図るとともに、非効率業務については解決策を決定する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 業務の効率化
- ・ 非効率業務の見直し
- ・ 委託業務の見直し

業務の定型化・マニュアルの整備

【当該事業の最終目標】

業務の定型化を進めるとともに、マニュアルを作成し、業務の迅速化、正確な業務の遂行、各職員の業務遂行能力の平準化、効率化を実現する。2016年度は上半期に定型化可能な業務を決定し、下半期に定型化、マニュアルの作成を行う。

【2016年度の事業計画】

- ・ 業務の定型化
- ・ 業務マニュアルの作成
- ・ 人事手続ガイドの整備

(3) 人事政策

学院の継続的な発展のために中長期的な人員計画を策定するとともに、職員が高い意識を持って業務に取り組み、活力ある組織を実現するために、人事制度の見直しを検討する。

人員計画の策定

【当該事業の最終目標】

人員計画を策定し、適正な人員配置、計画的な採用、将来を見据えた計画的な人材育成の実現に取り組む。

【2016年度の事業計画】

- ・ 人員計画の策定

人材の育成

【当該事業の最終目標】

フェリス職員のあるべき姿を「目指すべき職員像」として描き、それを具現化するための人材育成諸施策と研修体系を整備・実行する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 目指すべき職員像の検討
- ・ 職員研修

人事制度の見直し

【当該事業の最終目標】

各種人事制度の見直しを実施し、当該事業の最終目的である「職員が高い意識を持って業務に取り組み、活力ある組織」を実現する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 各種人事制度の見直し
- ・ 有期雇用職員の制度

教職員の健康保持のための支援

【当該事業の最終目標】

教職員が心身ともに健康で生き活きと働き続けられるよう、学院の支援体制を整えるとともに、教職員への啓蒙を行う。

【2016年度の事業計画】

- ・ ストレスチェック制度¹⁰の実施
- ・ 「心の健康づくり計画」¹¹の検討

¹⁰ 労働安全衛生法の改正により新たに創設された制度で、心理的な負担の程度を把握する検査（ストレスチェック）やその結果に基づく面接指導の実施義務付け等を内容としたもの。

¹¹ 厚生労働省の指針により策定が推奨されている、中長期的視野に立ってメンタルヘルスケアを行うための計画。

(4) 財務

学院を取り巻く厳しい環境の下、学院の長期的な発展を支えていくためには健全な財政を維持していくことが重要であり、財務の面においても新たな取組を行う。

財務指標の設定

【当該事業の最終目標】

財政の安定化、継続的な収支の確保を行っていくために、各種財務指標を具体的に設定し健全な財務体質の実現を図る。

【2016年度の事業計画】

- ・ 財務指標設定

中長期的な財政計画の策定

【当該事業の最終目標】

中長期的に安定した財政構造を維持し、将来に向けて盤石な財務体質を構築するために、各種ガイドラインを設け、計画的、かつ安定した財政運営を実現する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 財政計画に則った財政運営

予算実績管理体制の整備

【当該事業の最終目標】

計画的な事業の遂行、予算の執行および、中期計画・事業計画・予算の連携を図るために、予算・実績管理体制を整備し、予算の執行状況を把握するとともに、予算執行をコントロール可能な体制を構築する。2016年度は上半期に体制を構築し、下半期より実行に移す。

【2016年度の事業計画】

- ・ 予算実績管理体制の整備

収入の多角化に向けた取組

【当該事業の最終目標】

学院の収入を取り巻く環境は厳しさを増しており、新たな収入を確保するための施策の検討を行う。

【2016年度の事業計画】

- ・ 収入の多角化の検討

資金運用規程の見直し

【当該事業の最終目標】

現在の資金運用規定による運用は一部の金融商品に限定されており、また低金利下で運用益は減少基調にある。安全・確実を前提にした規程の見直しを行い、運用益の増加を実現する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 資金運用規程の見直し

(5) 150 周年記念事業

2020年に学院創立150周年を迎える。この節目に学院内外の関係者が祝う場を設けることで、従来から学院の教育活動を理解くださり、大きな支援をいただいている関係者に対して感謝の意を表す。また、社会に向けては、フェリス女学院の存在意義と今後の構想を示す。

記念事業の決定と寄付募集

【当該事業の最終目標】

「フェリス女学院150周年記念事業統括委員会」(2015年10月設置)の下、2020年に向けて学院が一体感を持って記念事業を推進していく。

【2016年度の事業計画】

- ・ 学院・大学・中高の記念事業計画の策定(資金計画含む)
- ・ 150周年記念事業のための寄付募集
- ・ 「150周年記念特設サイト」の開設

『学院150年史』編纂

【当該事業の最終目標】

150周年記念事業の一環として、次の事業を行う。

- 『フェリス女学院150年史』を完成させ、フェリス女学院の教育の歩みを明らかにし、後世に伝える。
- 『フェリス女学院150年史』の編纂に必要な史資料の収集、整理を行い、『フェリス女学院150年史資料集』を順次刊行する。
- 学院史教育に用いられることを目的として、『フェリス女学院創立150周年記念誌(図録・年表)』(仮称)を2020年に刊行し、記念式典等で配布する。

【2016年度の事業計画】

- ・ 『フェリス女学院150年史』の編纂
- ・ 『フェリス女学院150年史資料集』の刊行
- ・ 『フェリス女学院創立150周年記念誌(図録・年表)』(仮称)の刊行
- ・ 史資料の収集、整理、保存



学校法人
フェリス女学院

〒231-8660 横浜市中区山手町 178
TEL 045-662-4511(代表)